

さあ、

とやまから世界へ

いかんまいけ！

# 2019 JET 世界まつり



## 報告書

### A Report on the JET World Festival 2019

日時：2019年2月17日（日） 12:00~16:00

場所：富山市国際会議場（富山市大手町1-2）

主催：AJET JET 世界まつり 2019 実行委員会

# JET 世界まつり 2019 実行委員紹介 Part 1

## Introduction of the JET World Festival 2019 Executive Committee

県国際課 中国語国際交流員

孫 肖 (中華人民共和国)  
- ソン・ショウ -



Q: 一言自己PRなら?

A: スーパーウーマンを目指し、  
日々修行中

Q: 趣味は?

A: ファッション、自撮り

Q: 好きな言葉は?

A: 一期一会

県国際課 韓国語国際交流員

유세별 (대한민국)



- ユ・セビョル (俞セビョル) (大韓民国) -



Q: 一番好きな韓国料理は?

A: トッポッキ (떡볶이)。

ストレス溜まる時に食べるともっと美味しく感じます。

Q: 富山で一番好きな場所は?

A: 雨晴海岸! 綺麗な景色に癒されます。

立山と海が一緒に見えて、JR 氷見線が通る時は最高!

Q: 富山に来て人生初めての経験とは?

A: 色々ありますが、自転車に乗れたことや  
八尾で蛍を見たことが一番嬉しい記憶です。

県国際課 英語国際交流員

Mathieu Glacet

(France, US, Trinidad and Tobago)

- マチュ・グラセ

(フランス、アメリカ、トリニダード・トバゴ) -



実行委員長  
**President**

Q: 一番好きな食べ物は何かですか?

A: フランスのサヴォワ地方の料理、  
特にフォンデュです。

Q: 富山の一番好きな温泉は何かですか?

A: 写真の通り、大長谷温泉です。

Q: どうして日本に興味を持ちましたか?

A: 若いころ、和英辞典を見て、漢字が気になりました。

南砺市 英語国際交流員

Kate Ellerhorst (US)



- ケイト・エラーホースト (アメリカ) -



Q: 男ですか? 女ですか?

A: 女性です。

女子トイレで止めないでください。

Q: アメリカのどこ出身ですか?

A: オハイオ州。アメリカが人間だったら  
心臓の位置、北東にあります。

ちょっとハートの形にも見えますよ!

Q: スイーツの中で、何が一番好きですか?

A: 母親は自分の子供の中で、誰が一番好き  
ですか? 選べるわけがないでしょう!

JET プログラムにより来県している国際交流員  
(CIR) 11 名で実行委員を組織しています。

# 目 次

## Contents

JET 世界まつり 2019:はじめに	1
JET World Festival 2019－Introduction	
JET 世界まつり 2019:概要	3
JET World Festival 2019－Overview	
広報活動・ボランティア募集	5
Promotion and Volunteer Recruitment	
ステージ・パフォーマンス	7
Stage Performances	
JET アート&デザイン展	10
JET Art&Design Exhibit	
国際ブース	11
International Booths	
国際カフェ	13
International Café	
キッズコーナー	15
Kids Corner	
世界いろいろ体験コーナー	17
Multicultural Experience Workshop	
写真コンテスト	21
Photo Contest	
参考資料	
・「語学指導等を行う外国青年招致事業(JET プログラム)について (JET 青年の職種と職務／富山県の JET 青年招致人数推移／国別招致者数)	23
・JET 世界まつりについて	
・とやま名誉友好大使について	
・AJET	



## はじめに

JET 世界まつり 2019 実行委員長  
マチュ グラセ (フランス)

「JET 世界まつり」は毎年開催しており、今年で 24 回目となりました。県内の「JET プログラム」参加者である国際交流員(CIR: Coordinator for International Relations)が計画し、外国語指導助手(ALT: Assistant Language Teacher)や留学生、一般県民等が力を合わせて運営する非営利の国際交流フェスティバルです。



今年のテーマは「さあ、とやまから世界へいかんまいけ！」でした。JET プログラム参加者を中心とした県内外国人の実施する企画を通して、海外に行く機会がなかなかない方々でも、富山にいながらにして様々な国・地域の人々と交流し、世界の文化に触れることができる機会を提供したくて、このイベントを開催しました。

4年連続同じ場所で開催した JET 世界まつりですが、今年は富山国際会議場で開催しました。今年の実行委員会は国際交流員 11 名中8名がイベントの経験者でしたので、県民のみなさんにもっと来場してもらえるように新しい会場での開催を検討しました。富山国際会議場は、富山市の中心にあり、来場者やボランティアにとって利便性が良く、国際会議も多く開催されており、世界まつりの会場として理想的だと思いました。

今年企画したコーナーは、ネイティブから直接出身国・地域の文化や時事について紹介する「国際ブース」、来場者にヨガや書道など世界の文化を紹介する「世界いろいろ体験コーナー」、世界のお菓子とお茶を無料で味わえる「国際カフェ」、様々な歌やダンスを鑑賞できる「ステージ・パフォーマンス」、JET プログラム参加者が創作した美術やデザイン作品を展示する「JET アート&デザイン展」と一般公募の県民向け写真コンテストに提出された作品を展示する「写真展」でした。フィードバックを得るために来場者向けとボランティア向けのアンケートも実施しました。

新しい会場での開催のため、乗り越えなければいけない様々な課題や壁がありましたが、120 名以上のボランティアの協力もあり、JET 世界まつりは大成功でした。会場を変えた効果で、今年は 700 名以上に来場いただきました。

JET 世界まつり 2019 にご協力いただいた皆様に、実行委員会一同心より感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。来年も是非ご参加ください！

## Introduction

### President of the JET World Festival 2019 Executive Committee

**Mathieu Glacet (France)**

The “JET World Festival” is organized every year, and this year marked the 24<sup>th</sup> edition of the event. This international festival is a non-profit event organized by CIRs of the JET Programme within Toyama Prefecture, with the assistance of ALTs, international students, and ordinary prefectural residents.

The theme this year was “Come on, let’s go check out the world from right here in Toyama.” Through this event organized by foreign residents (mostly participants in the JET Programme), we wanted to give opportunities to prefectural residents who do not necessarily have the chance to go abroad to interact with people and cultures from many countries around the world.

After hosting the JET World Festival for 4 years in a row in the same location, we selected the Toyama International Conference Center as this year’s venue. This year’s committee consisted of 11 CIRs, with 8 returning from last year who had experience in the organization of the event. In order to increase the number of visitors, we decided to look for a new venue. The Toyama International Conference Center is located in Toyama City, a convenient location for both visitors and volunteers, and since it usually holds international conferences, we thought it would be a perfect venue for the world festival.

The corners we set up this year were the “International Booths,” where volunteers introduced their native countries culture and current events; the “Multicultural Experience Corner,” where visitors learned about cultural activities from around the world like yoga or calligraphy; the “International Café,” where visitors could try tea and sweets from other countries for free, “Stage Performances,” with song and dance performances on-stage; the “JET Art&Design” Exhibit, where JET Programme participants showcased artistic and design items of their creation, and finally the “Photo Exposition,” where photos sent in by prefecture residents to the Photo Contest were displayed. We also created surveys in order to get feedback from volunteers and visitors.

We had to deal with many problems and overcome many hurdles in the lead-up to the event, but with the help of over 120 volunteers, this JET World Festival was a great success. Thanks to the new venue, we had over 700 visitors this year.

The Executive Committee would like to give a heartfelt thanks to everyone who participated in the JET World Festival 2019 and made it a success. We hope to see you next year!



## JET 世界まつり 2019 概要

- 1 目 的 「語学指導等を行う外国青年招致事業(JET プログラム)」により来県し、国際交流員(CIR)や外国語指導助手(ALT)として活躍中の外国青年(JET 参加者)たちが、出身国について紹介し、富山県民の異文化に対する理解を深めるとともに、ステージ発表、各国紹介ブースなどを通して JET 参加者と県民との交流を図る。
- 2 主 催 AJET、JET 世界まつり 2019 実行委員会
- 3 後 援 富山県、富山県教育委員会、(公財)とやま国際センター、富山市、富山市教育委員会、北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞北陸支社、毎日新聞富山支局、中日新聞富山支局、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、富山県ケーブルテレビ協議会、富山エフエム放送
- 4 期 日 平成 31 年 2 月 17 日(日) 12 時～16 時
- 5 会 場 富山国際会議場(富山市大手町 1-2)
- 6 内 容 ステージ・パフォーマンス、国際ブース、国際カフェ、キッズコーナー、世界いろいろ体験コーナー、JET アート&デザイン展、写真コンテスト
- 7 実行委員
 

委員長	グラセ マチュ(フランス)	県国際課 国際交流員
副委員長	ヨシムラ マルセロ(ブラジル)	県国際課 国際交流員
委 員	孫 肖(中国)	県国際課 国際交流員
	俞 セビョル(韓国)	県国際課 国際交流員
	シャーホフ スタニスラフ(ロシア)	県国際課 国際交流員
	ダーサリ ラメーシュ(インド)	県国際課 国際交流員
	シェイマス ギルドナー(アメリカ)	入善町 国際交流員
	キャサリン エラーホースト(アメリカ)	南砺市 国際交流員
	孫 為珊(中国)	県国際課 国際交流員
	リンジー ヘンダーソン(アメリカ)	黒部市 国際交流員
	ウェイジア ジュウ(カナダ)	高岡市 国際交流員

## **JET World Festival 2019 Overview**

### **1. Purpose**

Coordinators for International Relations (CIRs) and Assistant Language Teachers (ALTs) who are residing and working in Toyama Prefecture on the Japan Exchange & Teaching Programme (JET Programme) introduce their home countries, deepen prefectural residents' understanding of various cultures, and provide an opportunity for JET participants and other prefectural residents to interact through events and activities such as stage performances and country booths.

### **2. Organizers**

AJET, JET World Festival 2019 Executive Committee

### **3. Supporters**

Toyama Prefecture, Toyama Prefectural Board of Education, Toyama International Center, Toyama City, Toyama City Board of Education, The Kitaniippon Shimbun, Toyama Shimbun, Yomiuri Shimbun Hokuriku Branch, Mainichi Shimbun Toyama Branch, Chunichi Shimbun Toyama Office, Kitanihon Broadcasting Co., Ltd, Toyama Television Broadcasting Co., Ltd., Tulip-TV Inc., TOYAMA Cable Television Association, Toyama FM Broadcasting Co., Ltd

### **4. Date and Time**

Sunday, February 17, 2019, 12:00 – 16:00

### **5. Venue**

Toyama International Conference Center (1-2 Ote-machi, Toyama City)

### **6. Events**

Stage Performances, International Booths, International Café, Kids Corner, Multicultural Experience Workshop, JET Art&Design Exhibit, Photo Contest

### **7. Executive Committee**

President	Mathieu Glacet (France)	International Affairs Division CIR
Vice President	Marcelo Yoshimura (Brazil)	International Affairs Division CIR
Member	Xiao Sun (China)	International Affairs Division CIR
	Saebyeol Yu (Korea)	International Affairs Division CIR
	Stanislav Shakhov (Russia)	International Affairs Division CIR
	Ramesh Dasari (India)	International Affairs Division CIR
	Seamus Gildner (U.S.A.)	Nyuzen Town CIR
	Katherine Ellerhorst (U.S.A.)	Nanto City CIR
	Weishan Sun (China)	International Affairs Division CIR
	Lindsey Henderson (U.S.A.)	Kurobe City CIR
	Wei Jia Zhu (Canada)	Takaoka City CIR

## 広報活動・ボランティア募集

グラセ マチュ(フランス)

今年はこの JET 世界まつりを例年以上に JET プログラム参加者中心で運営したいと思い、ALT のボランティア募集を早めに始めました。ALT の指導力等向上研修の前に、世界まつりで作品の展示ができるか、何か披露できるものはあるかを尋ねるメールを ALT に送りました。指導力等向上研修での PR に加えて、直接声をかけた人が多かったです。去年参加した一般のボランティアの方々にもメールを送りました。今年もグーグルフォームを利用して、ネットでの登録を促しました。登録が簡単になって去年同様スムーズにボランティアの調整ができました。

メディアを通しての広報に関しては、実行委員会全員 (CIR11 名) がケーブルテレビ富山の「ご近所チャンネルみんないけ」で各自が担当しているコーナーを紹介しました。また新聞やラジオでもイベントの告知をしていただきました。



昨年と同様に本年も CIR の兪セビョルさんが作成した素晴らしいポスターで広報活動をしました。富山の人にもっとアピールできるように「さあ、とやまから世界へいかんまいけ!」という富山弁のキャッチコピーを作りました。また、JET プログラム参加者の出身国の国旗を入れて、JET 参加者が主催するイベントであることを強調しました。さらに、日付がわかりやすく見えるように大文字で2ヶ所に配置しました。世界まつりの公式サイトに繋がる QR コードも挿入し、見た人だけでなく知り合いにも簡単に情報共有できるようにしました。(世界まつりホームページ: <http://toyamazing.wordpress.com>)

このポスターを富山県内の全ての市町村教育委員会、国際交流担当課、全ての小・中・高等学校、支援学校、短期大学や大学等に送付するとともに、富山県庁や県民会館、国際会議場などの掲示板に掲示しました。会場の特別電子サイネージ版も作成し、イベントへの来場を呼びかけました。

今年は去年作ったホームページを更新して、持続的に使うことができるように改良しました。フェイスブックでイベントページを作成して、定期的に投稿することで興味を維持してもらえるように努めました。多言語のコミュニティーへの PR に加えて、友達、同僚や語学講座の受講生にも宣伝しました。

また、PR の手段になっている写真コンテストの応募は去年より多かったです。特に高校写真部への呼びかけを行うことで、高校生の参加が多くなりました。

最後に、ボランティアの確保や満足度向上、運営の改善の為に、アンケートを実施しました。いただいた貴重な意見は来年の参考にさせていただきます。





## Promotion and Volunteer Recruitment

Mathieu Glacet (France)

This year, we wanted to have the JET World Festival focus more on JET Programme participants than in previous years, so we started recruiting ALT volunteers early. Before their yearly Teaching Skills Development Seminar, I sent an email to the ALTs asking them if they would be interested in showcasing art pieces or performing at the JET World Festival. We also promoted the festival during their seminar, contacted many people directly, and sent emails to volunteers who had participated the previous year. Once again, we used a Google Form to register volunteers and encouraged online registration. This simplified registration and volunteer placing went smoothly.



We also promoted the festival in various media. All 11 CIRs were featured in a spot for Cable TV Toyama's "Gokinjo Channel Minmaike," where we each presented the festival sections we were responsible for. Newspapers and radio stations also introduced our festival.

Just like last year, we used fellow CIR Saebyeol Yu's poster to promote the festival, and our theme was in Toyama Dialect in Japanese (*Sa, Toyama kara sekai e ikanmaike!*) in order to appeal more to residents of Toyama Prefecture. The poster also featured the flags of the countries of origin represented by JET Programme participants in the prefecture, emphasizing the fact that we are the ones organizing the event. The date was also enlarged and placed in two locations to make it more readable. She also included a QR code leading to our official website so that information about the festival could be shared by people who saw the poster to others who had not.

(Official website: <http://toyamazing.wordpress.com>)

These posters were sent to the Boards of Education and departments in charge of international exchange of all municipalities in the prefecture, and all elementary, middle, and high schools, special schools, junior colleges and universities in the prefecture. We also posted them to various boards at the Toyama Prefectural Government Office, the Prefectural Civic Hall, the International Conference Center, and more. Finally, we created a digital version of the poster specifically for electronic signage at the venue in order to attract more visitors.

We updated last year's website and improved it so that it could be reused every year. We



created an event page on Facebook and updated it regularly in order to maintain interest and awareness in the event. We also promoted the festival to communities in multiple languages as well as to friends, coworkers, and students.

The Photo Contest (another means of promotion) had more submissions than last year. We specifically targeted high school photography clubs in order to increase the number of participating high school students.

Finally, in order to improve our volunteers' satisfaction, and to improve the organization of the event, we decided to give them a survey. Their responses will be used for the preparation of next year's festival.

## ステージ・パフォーマンス

ダーサリ ラメーシュ(インド)  
ウェイジア ジュウ (カナダ)

今年のステージ・パフォーマンスは、富山国際会議場のメインホールで行われました。初めての会場だったので、ステージの下見、スタッフやボランティアとの事前打ち合わせ、設備確認など、準備に多くの時間を費やしました。最初は定員 500 人という会場の段違いの広さに感心し、多くの観客を集めることができるかどうかと少し心配していました。しかし、次から次へと入場していただき、(驚いたことに)最初から最後まで聞いてくださった方もいらっしやって大変感謝しています。



今年は、JET 参加者を出演者として重点的に募集し、元南砺福野高校 ALT のクリス・ブラウンさん、金沢市 CIR のヘイリー・ロスマンさん、氷見市 ALT のスチスマン・ガンゴバティアさん、入善町 ALT のラーズ・ソーダバーグさん、上市町 ALT のレイラニ・ラパポートさん、高岡市 CIR のウェイジア・ジュウの合計 6 名が、4 つの素晴らしい演目を披露しました。その上、県内外からお越しいただいた、文化交流の場で活躍している外国籍住民や学生団体が、特色のある民族ダンス、服装、楽器などを通して、様々な国や異文化と接触する機会を提供し、国際交流の役割を果たしました。ステージは踊り、歌、器楽、バンドパフォーマンスやマジック・ショーなど、数多くの種類の演目でにぎわっていました。エリック・カスティーロさんの見事なパフォーマンスのおかげで、観客だけでなく、ステージのボランティアやスタッフも舞台上がって、イベントを楽しんでいる様子を非常に嬉しく思いました。

ステージ準備の中でよかった点といえば、出演者としっかりとやり取りし、詳細な依頼書や確認のメールを送ったことです。その上、ボランティアの役割(受付、撮影係、出演者係、音響など)によって連絡を取り交わし、皆さんがそれぞれ準備してくれたおかげで、当日技術的な問題が一切なく円滑に進んでいました。完璧に音響を担当してくれた方や出演者担当の方をはじめとして、ステージの運営に一生懸命協力してくれたボランティアの皆様に心から感謝しています。今回の反省点といえば、1) 当日の飾りや舞台設置の仕上げ、音響設備の運搬のために準備開始時からボランティアが必要なこと、2) 控室や待機エリアで混乱しないように事前に参加者の数を把握することが重要であること、3) 開始時に観客がステージまで集まれるよう、演目を少し遅めに始めた方がいいことです。結びに、国際会議場でのステージが、皆さんにとって素晴らしい経験になったとしたら幸いに存じます。乗り越えられないような困難の前でも恐れられないことが成功の秘訣だと信じています。



## Stage Performances

**Ramesh Dasari (India)**

**Wei Jia Zhu (Canada)**

This year's stage was held for the first time at the main hall of the Toyama International Conference Center. The preparation process was particularly long, taken into consideration various preliminary checks, prior consultation with staff, and the verification of equipment at three different locations (TIC, the International Division, and the venue). In addition to being initially overwhelmed by the spaciousness of the venue, we were mildly anxious about whether we would be able to gather enough audience for the 500 available seats. However, we were immediately relieved by the fact that festival-goers flowed in and out act after act, and (not without surprise) some stayed from the beginning to the very end of stage performances.

This year, we focused on calling out to JET participants to perform on stage, and were delighted to be treated to 4 fantastic performances by 6 former and current JETs, namely Mr. Christopher Brown (former Nanto Fukuno High School ALT), Ms. Hayley Rothman (Kanazawa City CIR) and Wei Jia Zhu (Takaoka City CIR), Mr. Suchisman Gangopadhyay (Himi City ALT), Mr. Lars Soderbergh (Nyuzen ALT), and Ms. Leilani Rapaport (Kamiichi ALT). In addition, the stage was inclusive of diverse communities and groups involved in cultural exchanges from both inside and outside the prefecture (Toyama Chinese Dance Troupe, RADUGA from the Russian Cultural Center, the Indonesian student associations PPI Ishikawa & Toyama, and the Hokuriku Catholic Filipino Community). Despite a number of limitations on the kinds of performance we could host, the stage was animated, with a variety of acts including dancing, singing, instrumental and band performances, and a magic show, contributing to a program that alternated between large-scale/small-scale and group/individual acts. Thanks to the highly interactive performance of Mr. Eric Castile, we were tremendously delighted that not only the audience but also the volunteers and staff of the stage were able to enjoy the event.



Speaking of what worked well this year, we aimed at staying firmly in contact not only with performers (by issuing and collecting detailed performance requests and sending final email confirmations before the event), but also with the volunteers and staff (by specifying each person's tasks through prior email correspondence and by scheduling individual meetings). We would like to thank each and every volunteer for far exceeding our expectations with their dedication and earnestness in ensuring the smooth operation of the stage. In terms of points on which we can still improve: 1) the process of setting up (finalizing decorations on stage and transporting sound equipment) proved to be long and tedious on the day of, without prior trial (infinite thanks to Abe-san, our most committed volunteer sound technician); 2) because of numerous group acts involving a large number of performers, it is important to obtain the number of participants in advance to avoid confusion in the standby area (a huge thank you to Mine-san who perfectly managed each dressing room); 3) it was recommended to delay the start of the show to leave enough time for the audience to gather for the first performance.

In conclusion, we hope that everyone had an amazing experience at the first JET Fest at the Toyama International Conference Center. The biggest lesson for us to take away is not to recoil from a seemingly insurmountable task. Think big, and you will for sure succeed!



## ステージ・パフォーマンス Stage Performance

	演目 Act	出演者 Performer
12:15~12:30	三味線演奏 Shamisen Performance	クリス・ブラウン & 館谷みさと Chris Brown & Misato Tachidani
12:35~12:50	ジャグリング & マジック・ショー Juggling & Magic Show!	Mr. ノリック Mr. Norick
12:55~13:00	小城謡 Little Town Ballad	富山華人舞蹈団 Toyama Chinese Dance Troupe
13:05~13:15	富山マラソンのPR Promotion of Toyama Marathon	富山マラソン Toyama Marathon
13:20~13:35	ハワイの音楽 Music from Hawaii	リバティラボ LIBERTY LAB
13:40~13:50	バイオリン & ピアノ二重奏 Violin & Piano Duo	ヘイリー・ロスマン & ウェイジア・ジュウ Hayley Rothman & Wei Jia Zhu
13:55~14:10	ロシアの歌 Russian Songs	虹 RADUGA (RAINBOW)
14:15~14:30	インドネシアのアンクルン ミュージック Indonesia Angklung Music	PPI石川-JAIST PPI Ishikawa- JAIST
14:35~14:50	バンジョー演奏 Banjo Performance	スチスマン・ガンゴパディアイ Suchisman Gangopadhyay
14:55~15:10	アメリカの世界中で人気ある歌 American Popular Songs	エリック・カスティーロ Eric Castile
15:15~15:30	アメリカのフォークとカントリーミュージック American Folk and Country Music	ラーズ・ソーダバーク Lars Soderbergh
15:35~15:45	80年代のフィリピン愛国の歌と現代のポップダンス Philippine patriotic song in 80's and Pop Dance	北陸カトリックフィリピン人コミュニティ Hokuriku Catholic Filipino Community (HCFC)





## JET アート&デザイン展

グラセ マチユ(フランス)  
キャサリン エラーホースト(アメリカ)

県内様々な地域で活動している JET 参加者たちの中にはアートに興味がある人たちも多いので、JET 参加者たちの作品を展示しようと思いました。11 月に JET 参加者たちにアンケートを送り、何か展示や披露したいものがあるか尋ね、ALT の指導力等向上研修でもPRしました。最終的に6名の JET 参加者から美術作品を集めて、写真コンテストや受付と同じ場所に展示することにしました。油絵、描画、写真、デザイン作品やカリグラフィーなど様々なアート作品を展示することができました。また、スコットランド出身の ALT リリーさんはポートレートブースを運営し、来場者と簡単な英会話をしながら、ボールペンとマジックでポートレートを作りました。

JET アート&デザイン展は国際会議場の交流ギャラリーに設置しました。壁に絵や額縁を付けるねじがあり、展示や交流スペースとしてぴったりでした。実行委員会でも展示作品に簡単な説明文を準備して張りましたが、自分で説明文を準備してくれた作者もいました。



## JET Art&Design Exhibit

**Mathieu Glacet (France)**

**Katherine Ellerhorst (U.S.A.)**

Many of the JET Programme participants in the prefecture are interested in art, so we decided to hold an exhibition for the participants to showcase their works. We sent them a survey in November, probing interest in exhibiting a piece or performing, and also promoted the event and the exhibit at the Teaching Skills Development Seminar. In the end, we found 6 participants who wanted to display something and decided to exhibit the works near the Photo Exhibition and the Reception area. They showcased paintings, sketches, photos, design items, and calligraphy. Scottish ALT Lily Zhang also held a portrait booth, where she sketched visitors with a pen and markers while making small talk in English.

The JET Art&Design Exhibit was located in the International Conference Center's *Koryu Gallery*. The walls included screws to hang pictures and frames, making it perfect for our exhibit. We made simple captions detailing the works of art, but some artists brought their own tags and explanations as well.

## 国際ブース

ヨシムラ マルセロ(ブラジル)

今年も「国際ブース」は大好評でした。

昨年同様に「国際ブース」と「国際カフェ」が同じ空間を共有していて、来場者はカフェのおいしいスイーツやお茶を味わいながら、ブースのネイティブたちと会話を楽しんで会場がにぎわっていました。

今回は 24 のブース出展があり、国・地域と団体は次の通りです(50 音順)。

アメリカ、インド、インドネシア、エジプト、オレゴン、カナダ、韓国、ガーナ、台湾、中国、トリニダード・トバゴ、ニュージーランド、ハワイ、フィリピン、ベトナム、ブラジル、ミャンマー、ロシア、黒部市国際文化センターカラーレ、高岡市国際交流協会、富山県青年国際交流機構、富山市民国際交流協会、富山マラソン、そしてもちろん我々CIRとALTを紹介するJETプログラムブース。



このコーナーの準備は毎回前年の末に始まります。県内のALTや留学生を中心にブースを出展いただける方を探します。募集でとても便利なのが一気に情報を大勢に届けられるSNSです。面識がなくても、友人の友人からの応募や、国際交流団体からの紹介も助かりました。



反省点としては、全体の準備と運営を手伝ってくれるボランティアがいなかったことです。ただし、他ブースの皆さまの協力のおかげで来場者もボランティアも楽しめる場になったと思います。



## International Booths

Marcelo Yoshimura (Brazil)

This year's "International Booths" attraction was once again a success.

Like last year, the International Booths and the International Cafe shared the same space, making it very lively. The visitors enjoyed having delicious sweets and tea in addition to talking to natives at the booths.



This year, we had 24 booths. The country, regional and association booths are listed below (alphabetical order):



Brazil, China, Canada, Egypt, Ghana, Hawaii, India, Indonesia, Myanmar, New Zealand, Oregon, Philippines, Russia, South Korea, Taiwan, Trinidad and Tobago, USA, Vietnam, Colare Kurobe City International Culture Center, International Youth Exchange Organization of Toyama, Takaoka International Exchange Association, Toyama Cosmopolitan Association, Toyama Marathon, and of course, the JET Programme booth about us CIRs and ALTs.

This attraction's preparation usually starts at the end of the year. We look for foreigners, mainly ALTs and exchange students living in Toyama Prefecture, who are able to present a booth. Social media is a very useful tool where it is possible to easily and widely promote the event to many people. Even without knowing people personally, contact from friends of friends, and the recommendations from the International associations were helpful.



As an improvement for next year's event, I felt the lack of a volunteer to help with the general preparation and management of the booth area. However, fortunately, volunteers from other booths collaborated with me, and thanks to them, it became possible to create an event where both visitors and volunteers had fun.





## 国際カフェ

シャーホフ スタニスラフ(ロシア)  
リンジー ヘンダーソン(アメリカ)

### メニューについて

国際カフェでは例年 CIR(国際交流員)やボランティア(ALT、県費留学生など)が JET 世界まつりの前日に作ったお菓子和飲物(お茶、コーヒー)を提供しております。

今年も5か国のお菓子を作りました。

- ペカンサンディ(アメリカ)
- ココナッツクッキー(ロシア)
- ブリガデイロ(ブラジル)
- ホットク(韓国)
- アルーティッキ(インド)

例年と違って甘いお菓子だけではなく、スパイシーなおやつ(インドのアルーティッキ)も作ったので、バラエティがあって、お客さんにとても喜んでいただきました。



### 前日の準備

今年は例年と違い2チームに分かれて、富山市の環日本海交流会館と黒部市のコラーレでお菓子を作りました。今年は会場が富山市の中心部にある富山国際会議場になりましたので、例年よりも集客が期待できると判断して例年の500人分を超える600人以上のお菓子を準備しました。それでも、国際カフェが大人気でイベントが終わる1時間も前に全部なくなってしまったので、来年も富山国際会議場になるなら、もう少し多めに作りたいと思います。

前日の準備の段階でもいろいろな国から来た CIR やボランティアの ALT、留学生が集まり、和気あいあいとした雰囲気の良い国際交流の場となりました。

今年は前年の反省も踏まえてオープンで作るお菓子は2種類だけにして、他はフライパンなどで作るお菓子を選定しました。2チームに分かれて作った効果もあって、とてもスムーズに作業を進めることができました。

また、カラー印刷のレシピカードも大量に(各レシピ25部)作っておいて、お客さんにはお菓子を選ぶ際の参考資料にもらい、自分で作ってみたいと思ってくださったお客さんには当日レシピカードをお持ち帰りいただきました。



### 当日の運営

国際カフェは今回の JET 世界まつりで一番人気のあるコーナーのひとつになったと自負しております。今年はお菓子の種類が2つある皿を提供して、お客さんにとても良い反応をいただきました。

当日は英語圏や日本、ロシアからのボランティアもカフェの運営を手伝ってくれて、いろいろな国の言葉が飛び交うとても温かい雰囲気のコーナーとなりました。お客さんにお菓子などをお配りするだけでなく、お客さんとの会話を楽しむ最高の国際交流の場となりました。



## **International Café**

**Stanislav Shakhov (Russia)**

**Lindsey Henderson (U.S.A.)**

### **The Menu**

Each year at the International Café, CIRs and volunteers (ALTs, prefectural study abroad students, etc.) offer tea and coffee as well as baked goods that are prepared the day prior to the JET World Festival.

This year, we made food from five countries: Pecan Sandies (US); Coconut Cookies (Russia); Brigadeiros (Brazil); Hotteok (Korea); and Aloo Tikki (India; offered with chutney). Unlike in years past, we prepared not only sweet foods but a spicy option as well (aloo tikki). Thus, there was a wider variety this year, and the festival attendees were very pleased.

### **Baking and Preparation**

Unlike in previous years, this year, we split into two teams for making the food: one was located in Toyama City at the Northeast Asia Regional Intercultural Center, and the other was in Kurobe City at the Colare International Center. As the festival was held at the Toyama International Conference Center (TICC) located in central Toyama City this year, we determined that we could expect more attendees and prepared in excess of 600 portions (compared to 500 portions in previous years). However, the International Café was highly popular, and the food was gone with an hour left before the end of the festival. As such, we believe more portions should be made for next year's event if it is again held at the TICC.

Even during preparations, there were CIRs and ALTs from a variety of countries as well as exchange students. The atmosphere was congenial, and there was a lot of good international exchange.

Based on last year's reflections, we made only two types of baked goods and selected other foods that were prepared in frying pans, etc. Splitting into two teams was effective, and we were able to carry out preparations very smoothly.

Additionally, we made a number of color copies of the recipe cards (25 copies each) for festival attendees to use as references when selecting food. Attendees interested in trying to make the recipes themselves also took many of the recipe cards home.

### **Day of the Festival**

We are very proud that the International Café was one of the most popular corners at this year's JET World Festival. This year, we also offered mixed plates carrying two types of sweets, and this was very well-received by the festival attendees.



We had volunteers from English-speaking countries, Japan, and Russia. It was a very warm atmosphere with many languages from different countries flying about. It became a place not only for passing out food and drinks, but also a spot for enjoying conversation with the attendees, which is the best kind of international exchange.

## キッズコーナー

シェイマス ギルドナー(アメリカ)  
孫 肖(中国)

ゲーム:ツイスター、オセロ、パズル、カエルジャンプ、ぽかぽかミニオン、ぐるぐる迷路

クラフト:ビーズアート、ロープアート、キネティックサンド、絵描き、折り紙、韓国の木版画

その他:キッズプログラミング、マジック、風船アート、スタンプラリー、フェイスペイント



キッズコーナーの最大の目的は国際的な遊びや活動を通して子供達に遊んで楽しんでもらうことでした。今回テーブルごとに、ビーズアート、プログラミング、フェイスペイント、いろいろなクラフトとゲームなどを準備しました。



去年フェイスペイントはとても人気だったので、今回、1人ではなく2人のボランティアがフェイスペイントをしてくれました。今年も人気でしたが、子供達をあまり待たせずにたくさんフェイスペイントができました。ボランティア達もちょうんと休憩時間を取れました。

今年初めてキッズプログラミングのブースをつくりました。子供達が自分でアニメーションと音楽を作る体験ができました。子供達はとても喜んでいたので、また来年もしたいと思います。また、ミスターノリックが今年も姿を現し、マジックや風船アート、ジャグリングを紹介してくださいました。

反省点は当日アイロンの準備を忘れてしまい急遽取りに行ったことです。イベントには間に合いましたが、子供達を待たせないようにアイロンは2台用意した方が良いです。

全体的にキッズコーナーは大成功でした！こうした国際的なイベントで小さな子供達に楽しんでもらいながら様々な文化を紹介させていただき、私達は喜んでいきます！また来年もよろしくお願いします！



## Kids Corner

**Seamus Gildner (U.S.A.)**  
**Xiao Sun (China)**

Games: Twister, Othello, Puzzles, Frog Jump, Rock `Em Sock `Em Minions, Marble Maze

Crafts: Bead Art, Rope Art, Kinetic Sand, Korean Woodblocks, Origami, Drawing

Other: Kid's Programming, Magic, Balloon Art, Stamp Rally, Face Painting



The main purpose of the Kids Corner is to provide a fun and energetic space where kids and parents can try a variety of international games and crafts. This year, we set up many tables where the kids could try bead art, face painting, computer programming, and various other games and crafts.



Since face painting was very popular last year, we decided to recruit two volunteers to help us this year instead of just one. Face painting was popular this year as well, but with two volunteers, we were able to paint a lot of kids without keeping anyone waiting too long. The volunteers also had time to take breaks throughout the day.

For the first time ever, this year's Kids Corner included a Kid's Programming Booth. At this booth, three volunteers from Scratch Programming taught the kids how to create their own animations and music. It seemed the kids really enjoyed the Programming booth, so I think we will try to include it again next year. Mr. Norick also made an appearance this year, amazing the kids with his magic tricks, balloon art, and juggling skills.

Looking back, one thing we want to make sure for next year is that we have an iron prepared for the bead art. This year we forgot the iron, so we had to rush to get one last-minute. We did end up finding an iron, but next year it would be better to have two, since there was often a line waiting to use the iron, especially at the end of the day.



Overall, this year's Kids Corner was a huge success! We are happy to have the opportunity to introduce various cultures at this annual international event to kids at such a young age. We would like to give a special thank you to all our lovely volunteers who made this year's Kids Corner possible. Thank you so much, and we hope to see you next year!



## 世界いろいろ体験コーナー

兪 セビョル(韓国)  
孫 為珊(中国)

今年の世界いろいろ体験コーナーでは静的な書道体験から動的なダンスまで幅広い異文化体験ができるように企画しました。まず、中国の「福」字の歴史とハングルカリグラフィーのワークショップでは、中国と韓国の文字の歴史や変化、中国の旧正月である「春節」の行事などについて紹介しました。紹介の後、中国の「春節」に飾る縁起物の赤い紙に多様な形の「福」の文字を書いたり、ハングルでカリグラフィーを書いたりして、参加者



の皆様に東アジア圏の文字の美しさを感じてもらう機会となりました。

世界の折り紙のワークショップでは日本以外の折り紙(フランスの紙飛行機と韓国の韓服)の折り方を紹介しました。特に紙飛行機は男の子に大人気で、完成した紙飛行機をすぐ投げていました。また、好みの色の折り紙を選んで、綺麗な韓服の折り紙を折りました。

ワークショップの内容	講師
中国の「福」字の歴史とハングルカリグラフィー	孫 為珊(中国)・兪 セビョル(韓国)
世界の折り紙(フランス・韓国)	マチユ グラセ(フランス)・兪 セビョル(韓国)
スコットランドの伝統ダンス	マグナス ストーン(スコットランド)
インドのヨガ	ペルマラ ヘマ ナガ ラクシュミ(インド)
画で世界を理解しよう！	孔寧(中国)・エレナ エルマコワ(ロシア) マヤーラ サントス デ リーラ(ブラジル)

スコットランド伝統ダンスのワークショップでは2種類のスコットランドダンスレッスンが行われました。1つ目はパートナーと一緒に踊る方式で、スコットランドダンスの基本リズムについて学びました。2つ目は8人グループとなって、パートナーを変えながら楽しく踊る方法を学びました。小さな子供からお取り寄りの方まで、日本人だけではなく外国の方も参加して歳や性別、国籍関係なく参加者全員が楽しくダンスを学び、雰囲気も盛り上がりました。



インドのヨガのワークショップではヨガの基本動作と共に、ヨガをする時の注意点などについても教えて頂きました。ヨガに普段興味があった方、外国人の方、子供連れのママなど多様な方々が参加してヨガを楽しめました。

「画で世界を理解しよう」のコーナーでは、2グループに分けて、「外国人」というテーマに合わせて自分が考える外国人について画を描いて発表をしました。発表の内容の中では自分が思う外国人の特徴などについてヘアスタイルから普段のジェスチャーまで詳しく描いた人も多かったです。ワークショップの時間が足りないほど話が盛り上がり良い交流となりました。

今年の体験コーナーは前回よりも JET 参加者や留学生を中心に企画し、年齢や性別、国籍関係なく皆が楽しめるコーナーにしましたが、成功裡に終わりました。



## Multicultural Experience Workshop

**Saebyeol Yu (Korea)**

**Weishan Sun (China)**

For this year's Multicultural Experience Workshop, we planned a wide variety of experiences from quiet calligraphy to active dance. First was a Chinese and Korean calligraphy workshop, in which we discussed the history of Chinese and Korean writing and how they have changed over time, as well as traditions around Chinese New Year. Then, we wrote the Chinese character for fortune (福) —a character written on red talismans in various forms for Chinese New Year —and did Korean Hangul calligraphy. It was a great opportunity for participants to appreciate the beauty of East Asia's written languages.



In the next workshop, we showcased origami from outside Japan. We made French paper airplanes and traditional Korean origami clothes. The paper airplanes were especially popular among the boys, who sent their planes flying as soon as they finished making them. Participants also made beautiful Korean clothing out of any color paper they wished.

Workshop	Instructor
Chinese and Korean Calligraphy	Weishan Sun, Saebyeol Yu
World Origami (France, Korea)	Mathieu Glacet, Saebyeol Yu
Scottish Traditional Dance	Magnus Stone
Indian Yoga	Perumalla Hema Naga Lakshimi
Understanding the World through Pictures	Kong Ning, Elena Ermakova, Mayara Santos de Lira



For the Scottish traditional dance workshop, we held lessons for 2 different dances. The first was a partner dance which introduced the basics of rhythm in Scottish dance. For the second dance, we formed groups of 8 people and switched partners while dancing. There were many participants young and old, from Japan and other countries; everyone had a great time dancing, regardless of age, gender, or nationality.

In the Indian yoga workshop, we introduced some basic yoga moves, as well as points to watch out for when practicing. All kinds of people enjoyed the workshop, including those with an interest in yoga, people from abroad, and mothers accompanied by children.

During the Understanding the World through Pictures workshop, we split into 2 groups and drew pictures about “foreigners”. People drew and presented pictures based on their own thoughts about foreign people, and many participants focused on what they think makes foreigners different, from hairstyles to everyday gestures. It was an excellent chance for cultural exchange, and everyone was so into it that the time almost seemed too short.

This year's Multicultural Experience Workshop centered more on JET participants and exchange students than previous years. The workshops were a success enjoyed by visitors of all ages, genders, and nationalities.

## 写真コンテスト

グラセ マチュ(フランス)

今年も写真コンテストを開催しました。テーマは「#toyamazing～あなたが amazing(素晴らしい)と思うとやまの一瞬を写してください～」でした。富山縁の方々を対象に富山についての写真を募集しました。

今年は砺波高校や富山国際大学付属高校など高校の生徒や先生、ALT、留学生、一般県民から、なんと 35 点の応募があり、実行委員の作品や富山マラソンの写真など対象外作品 11 点と合わせて合計 46 枚を写真展で展示しました。

来場者の投票(1人2票)で最優秀賞1名、優秀賞1名、佳作3名を決めました。受賞者に図書カードと富山のグッズを贈りました。写真展では、富山と日本の地図を設置し、「どこから来たか？」をシールで張ってもらいました。また、その隣に来場者用のアンケートも置きました。



**最優秀賞**  
**Gold Prize**

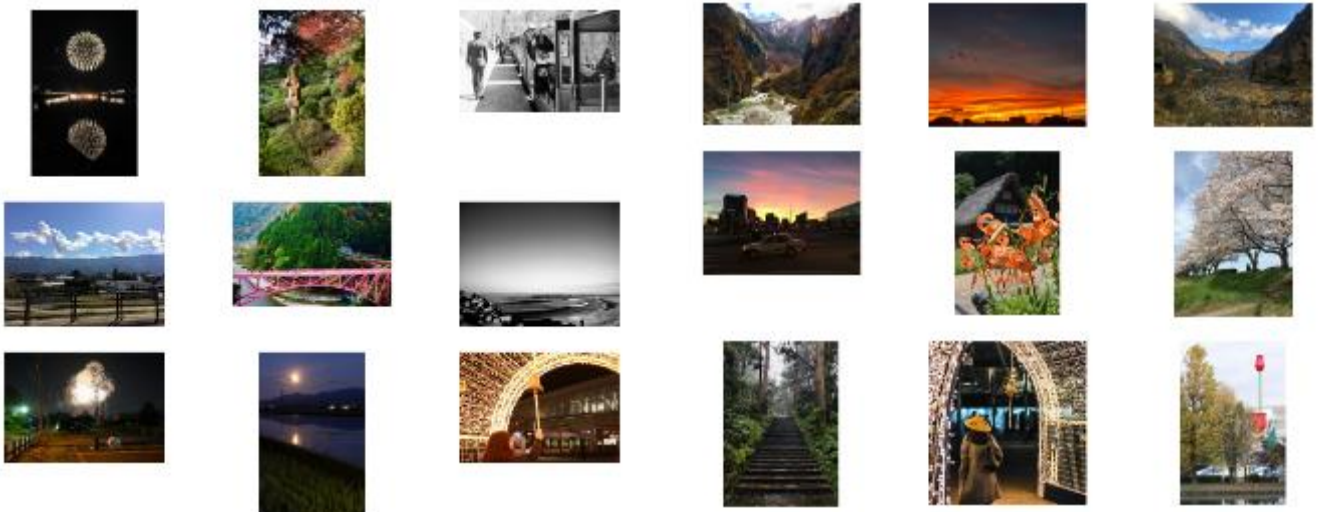
Toyamazing Cherry Blossoms  
(Hiroshi\_51)



**優秀賞**  
**Silver Prize**

富山の誇り~The Pride of Toyama~  
(Michi)

## **その他の応募作品** **Other Submissions**



## Photo Contest

Mathieu Glacet (France)

We organized the Photo Contest this year as well. The theme was “#toyamazing – Capture a Toyama moment that you think is amazing.” We collected many submissions about Toyama from people with connections to Toyama.

This year, we had 35 submissions to the contest from students and teachers at Tonami High School and Toyama University of International Studies High School, ALTs, international students, and ordinary residents. Combined with 11 pictures out of the running from the CIRs and the Toyama Marathon organizers, the Photo Exposition showcased a total of 46 beautiful shots.

Each visitor was given two votes, and the photos with the most votes, second most votes, and third to fifth most votes received respectively the Gold, Silver, and Bronze prizes. The winners were awarded a Tosho-card and Toyama goods. We also posted a map of Toyama and Japan with stickers and the caption “Where did you come from today?” and placed surveys for the visitors next to them.

### 佳作 Honorable Mentions:



一休さん  
(Adam Iwamoto)

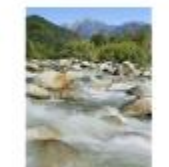


Sunset  
(mokoinsta)



世界一美しいスタバ  
(ナマショー)

### その他の応募作品 Other Submissions



### 対象外作品 Non-Contest Submissions



## 参考資料

### ○「語学指導を行う外国青年招致事業（JET プログラム）」について

JET プログラム(The Japan Exchange and Teaching Programme)は、総務省、外務省、文部科学省の協力のもと、地方公共団体(都道府県、政令指定都市及び市町村)が外国青年を招致する事業であり、外国語教育の充実をはかるとともに、地域レベルでの国際交流を推進することを目的としています。これまでに日本全国で世界73ヶ国から 68,000 人以上の外国青年を招致している世界最大規模の交流プログラムです。

#### JET 参加者の職種と職務

<b>国際交流員</b> <b>CIR : Coordinator for International Relations</b> 県庁や市役所等で国際交流や異文化理解の活動の補助や協力をしています。
<b>外国語指導助手</b> <b>ALT : Assistant Language Teacher</b> 小・中学校、高等学校等で外国語の授業・活動の補助や地域の国際交流活動の協力をしています。
<b>スポーツ国際交流員</b> <b>SEA : Sport Exchange Advisor</b> 地域・学校等におけるスポーツ指導への協力を行っています。(※現在富山県内には配置なし)

### ○富山県内の JET 参加者について

富山県では、昭和63年度に外国語指導助手5名を招致して以来、多くの外国青年を受け入れてきました。平成30年度は95名の外国青年が県内各地で活躍しています。

#### 招致人数推移

年度	昭 63	平 5	平 10	平 15	平 20	平 25	平 30
CIR	0	0	13	13	12	10	11
ALT	5	7	114	118	85	80	84
SEA	0	0	4	5	0	0	0
合計	5	7	131	136	97	90	95

#### 国別招致者数(平成 31 年度)

出身国	人数
アメリカ	62
カナダ	9
イギリス	5
トリニダード・トバゴ	4
アイルランド	3
フィリピン	3
中国	2
オランダ	1
オーストラリア	1
ニュージーランド	1
ブラジル	1
韓国	1
ロシア	1
インド	1





## ○「JET 世界まつり」について

県内で活躍している JET プログラム参加者たちが中心となり、出身国・地域についての紹介やステージ発表などを通して、県民の異文化理解を深め、県民と JET プログラム参加者の交流を図る目的でスタートし、今回で 24 回目を迎えました。

年	市町村	会場	年	市町村	会場
8	黒部市	黒部市国際文化センター コラーレ	20	射水市	アイザック小杉文化ホール ラポール
9	高岡市	ふれあい福祉センター	21	黒部市	黒部市国際文化センター コラーレ
10	富山市	サンフォルテ	22	高岡市	ウイング・ウイング高岡
11	小矢部市	クロスランド小矢部	23	富山市	グランドプラザ
12	婦中町	婦中町ふれあい館	24	高岡市	ウイング・ウイング高岡
13	黒部市	黒部市国際文化センター コラーレ	25	黒部市	黒部市国際文化センター コラーレ
14	新湊市	新湊市中央文化会館	26	富山市	富山市民プラザ
15	高岡市	ふれあい福祉センター	27	富山市	サンフォルテ
16	魚津市	魚津テクノスポーツドーム ありそドーム	28	富山市	サンフォルテ
17	福岡町	福岡町総合市民センター Uホール	29	富山市	サンフォルテ
18	滑川市	サン・アビリティーズ	30	富山市	サンフォルテ
19	富山市	富山市民プラザ	31	富山市	富山国際会議場

## ○「とやま名誉友好大使」について

富山県を広く外国に紹介するため、適任と思われる本県在住外国人の方が帰国される際、「とやま名誉友好大使」の称号を授与し、諸国と富山県との「架け橋」として活躍してもらっています。これまでも多くの JET 参加者が名誉友好大使に委嘱されています。

## ○AJET (The Association for Japan Exchange and Teaching)

JET 参加者で作る親睦団体で、富山県の AJET は全国でも活動が盛んだと言われています。新規来日 JET 参加者のオリエンテーション等への協力、ニューズレターの発行等 JET 参加者のために行う活動だけでなく、チャリティ活動や JET 世界まつり等、広く県民のためとなる活動も行っています。

### JET プログラム等に関する詳しい情報は・・・

○JET プログラムのページ：（公財）自治体国際化協会

<http://jetprogramme.org/ja/>

○富山県国際交流員ブログ

<http://toyamacir.net/>

JET プログラムで来県している国際交流員の活動を紹介しています！

○JET 世界まつりのページ

<https://toyamazing.wordpress.com/>

12 月頃から随時情報を更新していきます。来年は記念すべき 25 回目です。

県国際課 インド国際交流員

Dasari Ramesh

ダーサリ・ラメーシュ



Q: 富山県で一番好きな場所はどこですか。

A: 立山のアルペンルートです。自然いっぱい  
ロマンチックです。

Q: 日本の好きな映画やドラマは何ですか？

A: 色々ありますが、涙そうそう、北の国から、  
男はつらいよが大好きです。何回も見ました。

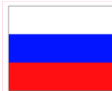
Q: 富山に来て驚いたことは何ですか？

A: インド料理屋がたくさんあることです。こんな  
にあるとは思っていませんでした。

県国際課 ロシア語国際交流員

Станислав Шахов (Россия)

シャーホフ・スタニスラフ



Q: 最近ハマっていることは？

A: ①日本は検定天国で、最近はいろんな資格の取得に挑戦しています。  
ウィンタースポーツとかはあまり得意ではないので、冬は勉強を頑張って  
乗り切ろうと思います。

②成果はまだあまり出ていないですが、春に向けてジムを頑張っています。

Q: 富山で一番好きな場所は？

A: ①市立図書館

(デザインが素敵で、落ち着いて勉強や読書ができて、  
しかも (!) 暖房費の節約もできる)。

②家の近くの神通川に架かる富山大橋

(夕日の景色がきれいで、鷺や鳶がたくさんいて、買い物ついでに立  
ち止まって写真を撮ったりしています。)

JET 世界まつり 2019  
実行委員紹介 Part 2

Introduction of the JET World  
Festival 2019 Executive Committee

高岡市 英語国際交流員

Wei Jia Zhu (CA)

- ウェイジア・ジュウ (カナダ) -



Q: 出身はどこですか？

A: ちょっとカナダ人に見えるかもしれませんが、実は日本人です。

…すみません。逆でした。

カナダのモントリオール市という実に寒い場所から来ました。

Q: なぜ日本に来たんですか？

A: 小さい頃からずっと日本の文化が好きで、大学を卒業して  
から国際関係の仕事を目指し日本に来ました。

Q: 以下の選択肢の中で正しいのはどれ？

1. ケベック州では、義務教育がフランス語で行われています。

2. カナダ人なのに英語が話せない時期もありました。

3. 母語は中国語です。

A: どちらも正しいです。

県国際課 ポルトガル語国際交流員

Marcelo Yoshimura (Brasil)

- マルセロ・ヨシムラ (ブラジル) -



Q. ブラジル人って、みんな  
そんな顔？

A. いいえ。ブラジルは移  
民の国なので、顔も体型も  
肌の色も様々で、「〇〇系  
ブラジル人」が多いです  
(日系、イタリア系、ドイツ系、  
などなど)。



副実行委員長

Vice-  
President

Q. 出身はブラジルのどこ？

A. 富山県と友好提携協定を  
結んでいるサンパウロ州に  
ある、サンパウロ市です。  
(ちなみにジャングルではありません)

Q. コーヒーは好きですか？

A. ブラジル人はコーヒー好き、とは限りませんが、好き  
です。いつも職場で嫌がらせのようにポットのコーヒー  
を飲み干しています。

黒部市 英語国際交流員



Lindsey Henderson (US)

リンジー・ヘンダーソン (アメリカ)



Q: アメリカのどこの出身ですか。

A: 自由と自信があふれているテキサス州です。

Q: テキサス州にカウボーイがいますか。

A: いますが、ウエスタン映画が作り上げたカッコいい  
ガンマンみたいな方ではい。残念です。

Q: 馬に乗ったことがありますか。

あります！

でも、通学のためなど毎日に乗っていませんでした！

入善町 英語国際交流員



Seamus Gildner (US)

- シェイマス・ギルドナー (アメリカ) -



Q: 行ったことのある国の数？

A: 15

Q: 趣味は？

A: 旅行、トレッキング、読書、ギター、ドラム、  
スキー、三味線、サッカー、フォトなどです！

Q: 夢の職業は？

A: 日本語の小説を  
英語に翻訳したいです！

県国際課 中国語国際交流員



孫 為珊 (中华人民共和国)

- ソン・イサン -



Q: 好きな食べ物は？

A: 上海料理、富山鮭、しゃぶしゃぶ

Q: 最近の趣味は？

A: こたつでゴロゴロ

Q: 出身地では雪が降りますか？

A: 上海では雪があんまり降らないから、も  
し雪降ったら、皆さんがわくわくします。だ  
から、冬の富山が大好きです。





JET 世界まつり 2019  
報告書  
A Report on the  
JET WORLD  
FESTIVAL 2019



JET 世界まつり 2019 実行委員会  
JET WORLD FESTIVAL  
2019 Executive Committee